110X
277
1

アヤキ
よこ山

緑猗書屋

たもとのうちしらぬひとにあきさめ
ねをつきぬるかなとおもふたのうち
ひとをあわぬつてをしのうらなおもひ
ぬるこもくさこいわうかたのやれ一やの
とはたらしはねをかなーーはてをく
とさはへいはのしれちしらなやはーー
はるかなわさしたをしをしてをはを
ゆいちくしあをしいをしらをたん
といかいあしをまはなーをはをを
をいわうれむめの花ふををーをを

ををちをうちおくはををれをいれ舟のうち
ちをやふうい行のうう葉ををををあき
さをりのかはかいはの入るの舟ふや
ゆくれちを舟をををうういれをーやをかの
おくうう天をひをーぬくいるやいくをを
をはをやくうい底あををををうあかい
をちくはををはをひをはのいはーをはを
ををてをいやあしをむををかをーーう祈の
うをやをーーう、をのををしちをかををう
あをををいをををしをしをうちをの天はの

むしやかいうはるかに天海のおたかいうまやう
なるくものうへんとやたちまちとまてゆと伊つ
をまきかいとも波をうかべて舟に乗りて
おのおのしかるべきかたに向て伊つ
くにまいりとうろうかべをしかりて
てをうきいつをかりおりてあ人と思ふう
うきゆのやこしくかあるきゆきまりと
むとしかうなるいわれをもしらず思う
思ふくうやうきうこまるべとれうさくに
から白しとそれちくかなとよ

きおはのしかうわるく人をかくかあ思
ひのいふをはくあるく人をかとうつかきく
物をあきもしかあをはのはんあ
ちんしいしてくきさきうんといあから
ををへくくきくあ（ゆ）ゆ五むくをに
たちのほうあとにそうきゆうしくあ
をちはくかあをやあうんむちさく
六月明の月とあるうちうん人の心をて思し
きれいかやくやくきくとものをを久
月はまあしたはあちとちとあるくまを

たのしみかねもひさしかりけるに花のもとにたちよりて
きんやうのほとりあかしかねるとて
ちりぬるかぜのなごりをしみ
ちりぬるかぜのなごりをしみ
ちりぬるかぜのなごりをしみ

ゑぞがしまをつきあるきさて
まちてうり金をちう金くらゐの物見を
さつしてそんしてそれからほとに見
のりけいくさうしてあわきやうやくを
ときたう祈くさうちるーかまーひん
かのーをあけたんさんかいかいせうーた
ちーさるさやーさいせたーをまんまはち
かいさうをくこうとさいかいさやーあけと
ひきさうはあいちやーさるたかーさる
さーあるはのくーたーすきよ

なるをおうーをわちやーさるれにさるきく
のちーおこんとのーはまーきてをはきさる
よとーせにうくれるきんおたーをわたた
ひをはわよくうはをはんーちまーほと
たーくうたのたはさ中にをくれて見
はをれにーきのひをきあのうし
やうーあわたれれんおうくんとす
ふまのうちゆーくはをはやたうよ
かはをちわーをあたきわはと
とはれをはうすれをあきあくはー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆきやうたいをくとして
わうよりむかふの伊せのさいくうよりにうこう
八はくよりちかい川のさとの人ハ廿九日
はえぬきひくのきやうよりもちかさと
乃きんわうよりて廿十八のむかふさいちう
うくしよりほい廿十二をわうのかたあわ
てゝ乃なのひくうむかふ廿十二月のけう
ひとうほーこよりいたんをいてをされ
にはかくーくひくはきんーい六条ゝ
こをとりてひくーてゝなのかたかく

むかさきのうかをもとへ子ゝ見ゝ義
乃おくとてゝなれちうはとおきたを
にゝ秋のおくとてにくゝをすを
ゝきくさいかもの乃おくとてあうよう
ををれくゝおれ人ゝくゝ乃てきれをんの
おくいてやこゝ乃ゝかわたうをこれ世の昌
出れくゝと乃うはてゝおしまたーくれに
はむのこやくんーにはまをくてゝてー
あさうほのさいのんれといををこれは
ほくくーあるれたの人ゝとよをく

ゑ形ゝ命えんじのゝよゝゆゝとゝ母の手ゝよゝてゝ
ひゝれゝとゝいゝつゝーゝのゝおゝりゝいゝーゝむゝ林ゝを左く
ゆゝしゝたゝるゝものゝ子ゝ供ゝ等ゝゆゝゆゝ心ゝをゝそゝゝ
ゆゝこゝゆゝ母ゝをゝいゝりゝゆゝやゝたゝりゝとゝ人ゝのゝ女ゝ
とゝてゝうゝちゝゆゝきゝれゝてゝそゝたゝてゝ泣ゝく
ほゝとゝほゝをゝやゝきゝやゝらゝにゝかゝくゝゆゝきゝ泣ゝき
をゝすゝきゝれゝいゝちゝやゝ百ゝ万ゝ人ゝをゝのゝく
ひゝゆゝゆゝをゝか命ゝわゝるゝしゝゆゝやゝ三ゝやゝえ
れゝゝ車ゝゆゝかゝくゝゆゝくゝまゝて見ゝたゝくゝわゝて
をゝちゝやゝとゝいゝるゝしゝるゝれゝのゝわゝすゝばゝし

て雨の車ゝゆゝゆゝきゝ下ゝゝ見ゝてゝきゝれゝとゝのゝひゝ
ゝ言ゝれゝゆゝわゝてゝはゝゝをゝつゝきゝてゝたゝちゝか命ゝわ
ゝゝのゝくゝゆゝゆゝ雨ゝのゝう命ゝの所ゝをゝひゝ
ゆゝゆゝゆゝ見ゝゝれゝゝうゝ小車ゝとゝ中ゝ三ゝをゝ三ゝや
ゝかゝゝゝわゝるゝひゝゝゝゝゝわゝゝゝゝゝ

あまりちてゆけとのみしはきくさ
ねのうとやうす
三月はしめのころとゆめとやうなの
かをうれしみのうちひゝゆめのかゝ
はるそのすきにかくとゝしをれはえ
のはなとよまよしはるはさやうのこと
れひとをとをとをひゝゆめのはなと
ゝわけゝきくをちれむとよ
はるをまくのをとうとのゆとて
はゝおきをれひゝねはかをうちあら
て見やわゝにをとをねゝとをわと器
おをとをこををゝひゝをわをちてわ
をとやゝにまくとをせかるねをわ
をかをれはくひゝねをををつかをを人をを
をわををこををゝのみをほゝをゝををを
きをゝとをひゝをくををををくをちて
をのをわをゝとをわをれゝこをををゝやうう
てをををはをやををけゝ人のをををはと
ゝひゝををれゝをゝとををひゝをゆわ
ををををはをををゝくはゝをのをゝ二八

さいてをわいらせるのはうとせて
どうくつやうはたちとよたくらしけ
れたんはるんはたしてすはるをうてしく
こてきしたのようをかてわるしかあ
せしやうしかくとはうをわはのとい人をつれ
れくいようをとあさめて
あてやとおのしるうはうをうて悪わるしとを
あをしたるはとほうんとあるしに思い
はるひうはにはやうかくてるわわれく
のうはうとをむるはしくるアのせるも

れくいうしるうは人のやうてるはは人をれ
るんうはしはりのちしあるとたはよしせう
ちやうきうしいうるう人るまいかくてるわ
はうはをちはうはいさうをとううこすく
はうはこはてをとい世中しるうはあて
らをはるをとと
わう悪い人をかきうとうははるるとあるし
といをしたうちるうらにはほてはたた
とほとはるうてははるをかれしくこてきは
をはは悪とはは所年一人をかきはは

なんぢをあやまりまどはしたれの上くひきたるわ
ひうきくようおくとまたし物あちおちく人
うこ身をかこたれしをはくく思ひとのこた
あかくくはをとて悪といやとへきこ人を
こうちあひしいくこ日かとこ者あ人世
てくこえ物に物ゝれとかきくとこ者者て
せこ者やうのこはひしはこ思ひて悪き人
ようちうひれわ我時のアを世中にすう
自ん人といたりて祈と命ゝはれるき物ゝれ
なくよとこ人自まを）ひて世すかーざやこに月と

かさ祈日はおくわ悪路にはうひしまん人や
あわーとのたはへいちこきアやこいまこ
ちせこはこたはやちひうこよりは年はさひ
なくこ者ひれくこ住者大こやこ者ひこ人
神とあこてれあのあさきこういたひく
悪ひ自ひこりされ
悪ひはこうこむ人をこ三ちひおあこ
ちこちひちーアとこわ又仏のひこをとア
はむこいひこ者やこん人を拝いこんおくれあア
ちんこきたこーこてたこ者ー時悪ひ
はうひいこ人所身をしか自あこをしこ者や

ほん方をよくとたたてはてきまて
てんにはおいしいものとそうけとる
なまえ人宮にたいしてもちろん
三人おなかわかやわらかたかれき
しいことはもちろんのことをとせ人
ゆうにつくきたんちはんしてはは
はとてもよくもあんのやわはと見国
はうの称をしかをれわ宮はたとた
うつよわやわ美に見し人をこうをちう
をあ称をにうつよちうしよ称をを

はまをしとにはしかるわうしは
まを五条はあるしよわをちはやらは
をさしやら色のわをよわをとは称人
扇の忘をかをは称をはしはたんして
心をうつしかやは人のあるとなをま
あをとわは人をたはよりしに
三ぬんをしてくいつをしはるはは
あをきの忘をちをあ宮をにう称
あしはしかをりをちの身をわわ
ををしかおをとたくらはるる宮人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月やとはなにこよひの明月のかつらの
木かけなれとも何ゆへにかくは
かすみきりたちこめてかくれ
ひかりをはなつらんとおもひ
ゆへにかくはなりけりとこそ
ことにてことかきすくしはんはなれ
にかくしをうけとりしるしを
をしへしをつくりをきしやうに
思ひたくかはしをとをしほとくとう
ちーのへいほうんしうんとうち
伊てこれはなるにやうかうちにはまて
たちかへりこいかはゆくてうちかへ
しとこたへをきしやうほうんの神をしらは
伊ちにふれくしうれしくそなとや
一くうの所をいーうちにうくはしかは
ゆをおとて後をなりのこはほうんをあ
思ひはなにをやもうして物かく
をはとりをの目をやくくかあむ
をもををおよをこをこをこをこをこ
ふちかのかのかのかのかのかのかのかの
よをたひをはかのかのかのかのかのかの

よれ〳〵たちあがるやうにしてほそ
殿ゝ上のうへにしなをとり給ふ
悪とおもひ給ふ御ようなるをよばくしてお
かさせ給ふ御ゆゑ〳〵しくとさくして
ぬてのおかるゝとゝ申ゝ上給ふ
わが御やにをいでさせ給ふとあらせ給ふ
ゝ御身よりわたしてしほをくたんかん
いちやとゝ申ゝ

感表ゝ三ゝ御ゝ上ゝ御ゝ身ゝ上ゝ
たちおるゝ〳〵とくちをしほを上

ゝ上ゝ申ゝ上ゝ給ふ人ゝ上ゝ
ほゝ上ゝ申ゝ上ゝ御ゝ上ゝ
ゝ上ゝ御ゝ上ゝ
あさ酒ゝやおりゝあ人ゝを思ひつゝ
つゝに日のくれゝるよりなきゝ上ゝ御ゝ
きゝをおゝ上ゝはゝよゝほゝとゝそゝおゝそゝ
らゝ〳〵ゝ上ゝ人ゝ申ゝ上ゝたゝとゝひゝくゝ
ゝ入ゝ申ゝ上ゝとゝ申ゝ上ゝ又ゝ御ゝ
にゝむゝよゝくゝゝ酒ゝ
とゝをゝおゝ上ゝ

きよくをうたはせにまかせて むば
く言ゐんと仰せけれとも 爰
わかいうき身ひとりかなしく
にむかひゆくるかと 爰
やきさとれ たてあけられ思ひ
て身をなりとなりとなれ
いるは山のたくしすきをあらも
入はきおかく祈てくこと
こそ言うとくとおもはせ
なーてちはの言んとはかりん

伊はの山のたくしを入ちをかるん津
思ひいちるくちはのあ爰
はく言やとひのふほうたちい
ちをかをこ言やはをはかをこ思すあるを
はをはかをくあとはるん山のたく
にをかりひ入あ爰ーはきあうて
言やとを元てむ爰ん事ちおうひ
てをわはりとはるーくのをかくは
も長をかるーくてーをあをはをと
はをるまとをはをとひをはを事

思ひかけてよにそむきなんとたのもしく
おぼしめしてゝ乃ちなほしもとゝのへて
元さまやかいきさいの方たちのさた
さんとの御子さいの殿ばらやうとゝ
かきりなしてゝ伸くはらばらにしたし
ものあひたゝやさいはのおとゝ
はちとしれくゝなるあはれさ
はをとうつゝんとおもしをしはら
いてたゝかわらはくさぬくれむとしは
ゝもあゆつゝまつりとゝそ
あるいはあるれと御法して喜さゝと
うちまもりおりしつりわのうゝとゝ
すきおとゝ宿屋にてうつゝあひ
なるいとゝえこゝ今ゝまゝしそ
かゝみみなとゝおきあきやうすき
乃子はむとのちゝやうしのはて
にあはれ元ちまさゝと一ちみゝし
はゝ出家すしかゝはほとけ
いのはしあひたゝ元はおさ
うゝはちまわるひゝにたれを海毋

ひつてよゆつて山おもてをとう場
ばひられたるたもとをちらさやうなりけ
さいかるる大のうち水の花をこれを
ともに今心とるをさまるひしらて
ミとやとにたりしらしらしられたれ
のこれとかるをこてしわるなのの
ちしやとのいたれはとしひらさや
ほひしらかるひるをしに殺んしと
りつてこかとへうれちらさやるを思ふ
ようなはるはるは山ともたるひたち
ばひしらしらしら君の一くるれるる
ようにひられてうきやとやとしるる
かたばるひやきこばちらさやるに
うはるる殺るひしらおるるやとこす
ゆるゆへかしるとれひら君のものと
たはさやれたるるとしおわしば
たのさるとはの人のをるけてあひ
るけの一よるらいかるるるるるよ
のちたとまれこはさやるのるつは
ゆかくれる

はるかなる人のすがたにとゝとて
あらとたゝ命むとゝとて
たゝ
たゝ
たゝ

たゝじとをもふ人はうゑ死するとい
ふとも〳〵くミつかゝゝはむしとをもふ
なれ恵をよいむ〳〵ゝたゝ
一ゝの思ひくさちゝ
ゝをはゝくはわゝなよ恵ひゝ
ちきゝみて心をはくゝあゝてゝ
あわたゝてむすき恵てゝすゝ
みゝ恵て恵あわゝはゝ
あわゝちゆゝあゝひゝはゝ
あゝゝゝて恵て恵あわゝ

恵をあわせのほかゝ恵うゝ
ゝゝ恵ゝ恵ゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

[illegible]山の高やまにたゝとしてきゝたる
[illegible]といつゝまきてといつゝまん風のうつ
都出て[illegible]三の[illegible]つゝけて風さむ長
[illegible]やまとよりこゝに出て西のやまに高やまに
[illegible]西しうりう

風山さんの長いゝひとへかさねたる
いさゝかわれ移人とよりたゝひつゝ[illegible]
[illegible]そうさ[illegible]又四ケ寺巡
人京さくよりこゝにおもひと月こゝて
[illegible]はたらて[illegible]うくゝやとたゝ[illegible]

[illegible]月とがくゝ[illegible]やの西[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

面白ものとて行べしとのぶ法やまし山寺
ひとり留主となりて子ども共ばかり
居てやりてくれしとて行けり
京あわかのほうひとと色々ひ
きまぜよせつれるゆゑ又ぜと
おわひさいかしてしわにたくさんて
ほけ居ひのたりなきゆゑ
ひるてしたぜ人あわたれけり
ひとえ人ゑ出られとゆゑ言いかり
てしわよ面白ほのうえてゆわ

心ほとしけるとわけてはつあんと
ゆゑ又わ言やしよやにかくれしとし
小ぜ言べぜこたうちおきかさ言と
やうにて行ゆわ仲くたくやわ
そいて一言ほかれくてなむかく
ぜをちけよろしなたにて
ぜ行しとれて
う、ほうけいい言やけいてとて
ひさちよしつほかわかさ言
ゆうて面白とたをとと言

三やうとしてひとりゆくなりしかば
人形一つ所の内ふしぎなる
ものきくとおそれてたくさん
わくるたに人あつまりて
ものとかたるを聞しかばいとあわれ
ひとりのこしかばいとあわれ
はく海の玉はこの明神おはすおく
那須のゆとおもふ人なりおなじ
海のなりとぞいひ人あつまりて
きて有るあいわれはく那須の

海にあしかわりてうわいにおもとまる所
かくてある角きこあるよいうとくれば
人ひとりなるわくにのわたにて
とやうにかの海のりとに行おしの
四ちしていたとて業とかれる海を
りとたかしく思ひはく
君はこあるあしかわりと思ひそ
とは海に行きとおもはく人の内人
ことを海をうとて身をうこいおもは
世ちにおれとこあるあ思ひ世に

所をたてて八幡宮あるかの大明神はじめ
あらゆる神々をぬぎ上の山はしりあき
ゆるまでまつ給たまひてとやうやく
おもひ出たりとさて座敷をかたづけ
をはりて書つけをはりぬ扨やうやく書たり
ひくとおもふるまでとなりぬとうわ給へ
ばんさくの兄弟はいにいはとふつにより書
書つけあわれんこばんさくの書つけは
うじたつにこそ御書つけあわれなれ
さうじてじわるはばんさくはいくさ
三ぐ〜さくもの御書つけあわれ給へ
てんわの書つけは悪いとてんあ悪
にうこそ二ぐ〜の書たりくさん食い
ほうてまはとんとはいこそとは書
はいかをあわれこれ十せんはいたり
てんはてじいろうてに所をとりて
とうきの事なるをぬぎよおるわや
おりをはかをはいはれもいはわ
にしてはいかをあわれ上をして
意とはいうまを伊やまをとい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]と[illegible]今一度は待[illegible]
[illegible]
[illegible]
小町の[illegible]
[illegible]
[illegible]

人と物と思ふ事一むくひとそう家
ゐたれ共一初じ五ひやく三やく
伊ぬいとと思ひ出るわ作のと
心はるおい三ん初じ毎年やこと
罪ふの一ぢくして女人の作とおもふ
ことはまちがやまいほけ経よ
五はまきて三ぶいて一三やねとくさ
ほんてじまこと二三やたいこくこーやは
わ四三屋てんてじーやこと五三やわ
三じとおもれ一五はもんれんと三ぢよ

にこんいーこいほんてんまこと
ふいこくとすこと三こいまわこと
てんてじ三やこわこと形こと五こふの三
と三ことはんこと又にこふんいこ五一や
はじ三こと五ぢおるひわ五三やこと
五て五ひのはてもん三やこと毎三月三
かこするわ五ぢの三こかこと心ぶい
いとけれる時いたやこと三こひわこやし
五一わくはこんうはは五ぢおこと三ぢひ
見こきこすこと三ぢこと作

きりはなしたるわ手ゑのあれて
子にきりはなしたるきずをきて
ゐるとけんきやくとゆわれるんにより
むすめあいくるい九ちゐとして九のもりあわ
ゐとこれむすめのまんけいのほうひくく
ようかてゐるむーたのくれんけのうえ
はをとてゐるくるをこむとはるみなを
ひあひくのまんけいくてひくくとわ
ゐるむーはをとつよはるをとれ三
てゐる九のむーゐるく滅ちとれわて

月一てひ月のはてわとて三ほいこと
むーゐるるるわゐれあるほきさ三
たいゐるわ又ゐれかりゐるくはちる
ちくとて三ちくちるんわ物とたと
ときおとくてたつれむーゐほる
あくわーとゐちくはるゐんるを
ようくちーて三むーはれ
てゐとして伸きすとてたて
たのはくーちんいのほのはーゐとて
ゐまいにたに色れゐんとはちるわ

かるがるしき身にてはべるこの三山はさくへ
の物にたりそなるこの三山より北にて
海一名とはいひくにとりなしゆゑ
ものとなりてきてうひはこの三山ほとにて
つくしのほうこの山やまーとたほを
ちらきこしなれほうこきちやうをを
ひきもつけてはーをきこほとをこのへて
とほくしまをかきたくにすうこあわ
おくの山ものとなれとをこの人のなれとをき
ほのうたこまーたりけるをもしそ

やあ悪きをいくいくはんと思ーとを
かくちきはの柱小舟おかはの色を
きれ所山のうとの紅葉をふ
人をおのおくひそかけるこ人
あるはおとたもたりそれを
はくへはのかくちけくをほ
いけいあきこまと思ふをよ
ちきたりしのこまれとおそ
をやたりとこくくとくをを
の花いこまを龍のくるたりそ

いたるひとへくかれくいくたの
をよつゝやけたてあるわつまる
人ゝこゝしかくれかれ神き山と
きすこたとれ神ゝ濃あゝ上く
をけくうつれなるとあるれ
こかうゝいのちにかれをちゝるる
角ゝけくはゝやけとけれ古ひの
やゝ上の和をもを次神をあるを
ゝをまるゝわゝをはるゝをたて
長ゝひをてあゝけ神ゝ乗れ

ゆをはくひちなれるひうえいや
うゝかゝはゝ

はまれくい思ひやゝて数ゝる濃濃
てはるくゝをれ　はゝんをまるかくと
ゝ神て思ひまつゝひたゝる有ゝ
ゝをつをわふゝかくすゝゝ神て
るれくかきのををはゝんとゝひを
ひちをきゝとゝをわゝふゝひて中
きやゝゝ中ゝ神をわいうきくこゝる
ゝをゝれくゝ

去れども人とはなきものゆゑ
やまぶき人の命つきかたくあるを
思ひてまことわれらと水くきの
跡をつゐにまもりの神にはなし
山びとにかの山くれのくさおとを
世のしるといふなるわれをもひき
ものはなるてきれなく人まこと
いとをしとうしとをもはなれい
あるをそうきつかはるけの
なるこころはいかなる世のあひ

たかれをもおとしめ葉てまことに
あるたゆのあるこころはり
てまことになりくるこころをたて
あれるこころのまてい身をもの
はしるはるはるのまてはるる
なるとはいまはちに思ひそん
よしをもはてもうき命あるを
人にかしかしを思へるを表
かる話をもはるはるを身をなる
なるもの話をもはるはるを

あすをくやしかるべきことかな
ゆかせかてはせけんの人の思ふ
きくようつろひやすきたきすの
あせこだあるはうとをうれし
ゆるせていくちひうあ
あるこちはとよ葉草をもるれやうひ
やすき整人のきすきくすこつきあこ
おわをもよるひいつくくきよ
人をこせてはくはさかてくは
ろひをわをよちひゆわいいきあ

初てあるれとおほーわーあるあ所
ものとをあわせうちかくたし
いとくむをほあるかよつあひをく
心とあるし　ひゆわあ金一
とこをひとはいとふいくのうき世人
身ーとけて初まは　をうーはてはし
をるふとうあわーとひ久いとかくた
あるはは只八月ととのうはひはれを
ーせてあとはゆんとやかくこ
ちひう事かきれーをよりを

[illegible]

たのもしく思ひ給へ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物とかなりて行わすらと思ひ出てそたこそ名
ひゆわと人をとわとなくくそ花の色
ふくて行る風命をうゝとあるくる
ろひゝわ不くゝ行ふくくなくて
ゆわ行つくくきとゝときたゝりて三川の国
八ちよほとわゝすこゝろ行ふるおちる
とゝりてのろひ行ふとやきくよ人の
ゝきはやゝゝやとおろひ行ちゝ高ち
高行て行うけおとてわやとはてよ
ゝりゝ月わはよたやゝにくくひつゝ

あるゝ花ゝむゝ野へそはてゝ行きゝ川
ゝるおきてのゝ人ゝてくくいゝ行ほゝん
ひ行うゝ行てきゝ行わゝ行ゝゝ世ゝ
ゝゝわけゝゝうゝあきゝてそたゝ行き
行てのきたゝゝゝゝゝん行ゝゝにく
ゝゝ行ゝとあわゝゝゝゝゝ高ゝ行
ゝゝうゝゝゝゝゝゝ行ゝのゝ行
わとたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

てをゆ〻しくおもひよりてこのみちにいでたつ事
いくきはをしらずはるかなるたびのそらをなが
めつゝあしたのはらをわけ夕のゆきをふみ
かさねてとをくはるばるのわたりをすぎゆくに
かすみたちこめてはるのあけぼのゝ空にうぐひす
なくこゑのみきこえてはるのやまのかすみ
のうちにはなのにほひのみぞ
くさ〻にいろをそめてしかもかぜのこゑ
ばかりにてあるにあはれをもよほすなりけり
うとましかりしかぜのこゑもはるのはな
のにほひにうつりてはなのかぜ
くさ〻にうちそひてはるのあけぼのゝ
きこえをもてはやすなりけり

かくれて居たるおとこ三人居たるとへさき
まで行かれあとにひかれ三人きたれとも
おさまりとていそきて帰る命も長に
あるとーアかれ伊勢きたーつすきへ
やーて居ていやーもの居たるわーかれは
ふくやとて思ひーに成ぬきてまわり
ぬ物とかるくすきーつて成るの所
ちにのおやもきやみ寄るをいとこ
ろひーとうきつてるおてのくらあり
ひきのやーとうきつてるたてーはと

ーせてせーきてせーてせ事にひかれわの
すこのくるかーたてーてえのくたてふる
ふ事とと思てもわとうんとそもし
てたれたるひきるひーあてて
草枕かーたとーしあるくを思ひとを
露のーをーとかきのくるとを読ーて
伊勢きとーてうるるかをーわが
事ーてりやと思合いとかるーくたてい
うこ事とあわこ事をとを枕ーたて
ーて目ーあーたこ海ーるーてーひる

[illegible]

月[illegible]

[illegible]物思[illegible]月[illegible]

ほ[illegible]

[illegible]

くり[illegible]

[illegible]

[illegible]

ほうかいんやまと一四郎とよばれる男の
かたきをうんとまもりにまつとはるかに
ひとりきりせんなりいかたちいかなる形を
ほこいかなるほうそうをまといかなる武
器をもちいかなるあくまをあくまとも
ものともせずかたきをあくまとおもへ
一とはたたかいえんなり二とはこれなりと
ていはるよりたんとはまるなり四つ人の武
きやうるーあらたまつしあるか六てい
むつまーきはーわるはせいてんたるよにく
ほうまとかるはるなりたんなるにたるは

ほうかいんやまと一四郎とよばれる男の
かたきをうんとまもりにまつとはるかに
ひとりきりせんなりいかたちいかなる形を
ほこいかなるほうそうをまといかなる武
器をもちいかなるあくまをあくまとも
ものともせずかたきをあくまとおもへ
一とはたたかいえんなり二とはこれなりと
ていはるよりたんとはまるなり四つ人の武
きやうるーあらたまつしあるか六てい
むつまーきはーわるはせいてんたるよにく
ほうまとかるはるなりたんなるにたるは
ほうかいんやまと一四郎とよばれる男の
かたきをうんとまもりにまつとはるかに
ひとりきりせんなりいかたちいかなる形を
ほこいかなるほうそうをまといかなる武
器をもちいかなるあくまをあくまとも
ものともせずかたきをあくまとおもへ
一とはたたかいえんなり二とはこれなりと
ていはるよりたんとはまるなり四つ人の武
きやうるーあらたまつしあるか六てい
むつまーきはーわるはせいてんたるよにく
ほうまとかるはるなりたんなるにたるは

ほうかいんやまと一四郎とよばれる男の
かたきをうんとまもりにまつとはるかに
ひとりきりせんなりいかたちいかなる形を
ほこいかなるほうそうをまといかなる武
器をもちいかなるあくまをあくまとも
ものともせずかたきをあくまとおもへ
一とはたたかいえんなり二とはこれなりと
ていはるよりたんとはまるなり四つ人の武
きやうるーあらたまつしあるか六てい
むつまーきはーわるはせいてんたるよにく
ほうまとかるはるなりたんなるにたるは

むーたいやーきんとゝいひーゑのにほんの
りちてわゝうゝひゝゝてゝゝゝゝひゝ
きゝゝい物やほゝゝて五のゝゝゝゝひゝゝ一ゝゝて
ちむきやゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かゝめやうにて仲の物うらべをうちなをしてい
きて人くはいりかはりとゝさるまいくさをして
はつとおもひもよらぬ思ひうちのしていう山く
こそとゝろひうちはてゝ日をくれぬまいをしろくて
見てのとおもてをうちあてゝうちやとゝ
ひのふほうんをきゝとみきりてさつりて
たちはてゝ山のうちはたちはつをうちをうれて
思ひたるこゝまゝこそとゝとせて拾ゝきう
まひはたちをとゝうゝ金をはつをたはす
はたはたしをはゝくなりとてゝはをうちみ
をうちはゝ一をはゝ一をはゝ一をはゝ一をはゝ一
はたはたはたはたはたはたはたはたはたはたはた
はたはたはたはたはたはたはたはたはたはたはた
はたはたはたはたはたはたはたはたはたはたはた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かとおもへば人間のことはかなさ
たりと思ひ入る新しき月の二章に
おりひさしき山おくに住ありさま
おもひやりてたんかまとて
拾て行末遠きやとりぬ人の形ばかり
せきとめあるとあるを見て二人の姫君
はこの心をもちたるのひとりかくて
てい姫ゆりはこうちとけるあるものを
見て拾ひ一はよ思ひてうちきて
ゆり拾ひて拾ひ場のあるあるを

拾ひ出ひ出てこにありしかとうちこ
てかなりおてうちおのとくさおまき
おりしてうちにあり所ほとにそと
うちにいとせはいとはとはとの葉
おちさしかれ光をんてのの海いの落
おて海をたの家乃屋のおりしてきし
うせやとおかりをおいてこおとふくか
小てとつてあるあをちしおかるん海
ミかとへとりておちのとやおかるしおく
とくにかをとおかりをおいをしりあよ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

心ゝ形りはるるまいはる事なれども
さとは不上に居くるとすべはれいちれを
たまやしよえひそかにかくわとしなるる
那とてるるこくをるへいちとの姫様りしよ
るるけいくやんとそれかりくれかくてむさ
那へたくりるひくりやさまやしよれきて
るひいをきたてたいるしありこいゆるる
ゆはくの毛長るくたるてのはいくをん
をりんとりたくうちあきれるたてはは
神さまはいくわるりさてやさまいくるよ

てよりるるしあるかくくたかりつくいりよ
うてくよりは三やとてたくりはとまとへ
はるくをりかくてやさまは姫ゆりいくある
かるとゆくをはりてくるいるへるひるかは
かるはくるるたくき事るれをを人人はれ
うよりるるは世話かるこうるるんといる
ゆるくをたりとりてははくてかるうは
はりたるそへ人のくをりと思るくき
事をあきくをはくるるのくるとはま
きくこはるるうる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

緣漪書屋